

下田市における「チーム学校」を実現する支援員の 資質・能力向上モデルの在り方

事業担当者

教育学部 初等教育課程 木村 光男、大井 雄平、大学院初等教育高度実践研究科 紅林 伸幸

目的・概要

「チーム学校」が成果を上げるための一助として、特別支援教育支援員（以下、支援員）の資質能力を向上させ、専門性を高める必要がある。しかし、支援員は研修を受ける機会が少なく、教職員との連携が困難な状況下にあり、その職責を果たそうと孤軍奮闘する姿を目にすると。また、支援員に対する研修は自治体の創意工夫で行う必要があり、とりわけ小規模市町村は研修に割ける予算の影響を受け、十分な研修やサポートが実施困難な状況に直面している。そこで、支援員の資質能力の向上を目的とした研修及び支援モデルを作成し、その意義と課題を提示する。令和2年度は研修会を実施しその前後にアンケート調査を実施した。

事業内容・方法

（1）事業対象者

研究対象者は下田市立の公立学校で勤務する支援員で、研修会に参加しあつ事後アンケートに回答した20名である。勤務校種の内訳は小学校13名、中学校7名である。

（2）事業手続き

1) 下田市教育委員会に支援員研修会の企画・実行する同意を得た。2) 事前アンケートの実施

※事前アンケートは、2項目の自由記述と記名欄を設け配布し18名から回答を得た。質問項目は次の通りである。① 日頃児童生徒の支援をしていて相談したいこと、② 講師に聞きたいこと、

3) 下田市支援員研修会

下田市支援員研修会は、令和2年12月14日にオンラインで実施（支援員と下田市指導主事は下田市公民館で受講）した。講師は事業担当者らである。内容方法は、事前アンケートに基づいて、個別具体的な事例を数点取り上げ、発達障害の特性理解とその支援について、および学級担任との連携の在り方について講義した。

（3）事業方法

事業方法は、研修会を実施し、その直後に研究対象者に実施した事後アンケートの分析検討による。事後アンケートは、研修会終了直後に用紙（無記名）を配布して実施した。そして、1週間以内に下田市指導主事に送付してもらった。回答率は91%であった。事後アンケートの内容は以下の通りである。①支援員の属性・概要（性別、校種、教員免許の有無、経験年数、週当たりの勤務時間・回数）、②支援員の状況（障害の基本特徴の理解、支援の自信、やりがい、児童生徒の困難さ、校内で相談する人・相談相手）、③支援員の研修後の認識である。支援員の研修後の認識については、事後アンケートの回答「③研修後の認識（自由記述）」から、支援員の認識特徴を抽出し、詳細かつ客観性を確保して検討するためKJ法による質的分析を実施し

た。分析過程では、事前準備として、まず、記述内容毎にカードを作成した。カードには、その要点をコードに付記した。次に、カテゴリー化では、同一のコードを集めた上でサブカテゴリーを抽出した。そして、サブカテゴリーを分析検討しカテゴリーに分類した。

事業成果

(1) 支援員の状況

支援員の状況（研究方法③参照）を表1に示した。

表1. 支援員の状況

項目	障害の基本特徴	自信	やりがい	児童生徒の困難さ	相談する人	相談相手(複数可)
	1.理解していない 2.あまり理解していない 3.少し理解している 4.理解している	1.無し 2.あまり無し 3.少し有り 4.有り	1.無し 2.あまり無し 3.少し有り 4.有り	1.理解していない 2.あまり理解していない 3.少し理解している 4.理解している	1.いない 2.あまりいない 3.少しいる 4.いる	1.校長 2.教頭 3.学級担任 4.養護教諭 5.支援員 6.支援学級 7.その他の教諭
小学校 13名	1…0人 2…1人 3…11人 4…1人	1…0人 2…3人 3…9人 4…1人	1…0人 2…0人 3…1人 4…12人	1…0人 2…1人 3…11人 4…1人	1…0人 2…0人 3…2人 4…11人	1…5人(38%) 2…6人(46%) 3…8人(62%) 4…4人(31%) 5…4人(31%) 6…1人(8%) 7…6人(46%)
	平均…3.0	平均…2.8	平均…3.9	平均…3.0	平均…3.8	
中学校 7名	1…0人 2…0人 3…5人 4…2人	1…0人 2…3人 3…4人 4…0人	1…0人 2…0人 3…6人 4…1人	1…0人 2…1人 3…2人 4…4人	1…3人(33%) 2…2人(22%) 3…2人(22%) 4…0人(0%) 5…3人(33%) 6…0人(0%) 7…2人(22%)	
	平均…3.3	平均…2.6	平均…3.9	平均…3.1	平均…3.4	
平均	3.1	2.7	3.9	3.1	3.7人	小2.6人 中1.3人

(2) 支援員の研修後の認識

「分析の手続き」に従って実施したカテゴリー化では、36のコードから8のサブカテゴリーを抽出し、それを3つのカテゴリー「研修の成果・意義」「研修方法」「その他」に分類した（表2参照）。

表2. KJ法により抽出されたカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	事後アンケートの結果 ③支援員の研修後の認識			
研修の成果・意義	支援の在り方	支援しやすくなった 個の実態からサポートする 支援員の介入が分かった 多様な支援をやってみる 特徴に沿った支援を知った 支援・サポートにつながる 今することを誓めることができ ベストな手助けを考えた 子どものできることを探す 良さを見つけ誓める 安心した 個々に合った支援に 子どもの困りに向き合う	研修方法	分析の手続きに従って実施したカテゴリー化では、36のコードから8のサブカテゴリーを抽出し、それを3つのカテゴリー「研修の成果・意義」「研修方法」「その他」に分類した。		
	自己の見直し・反省	一人一人と向き合うべき 誓めて子どもの味方になる 支援を見直す契機になった 子どもにとっての支援員 子ども理解と関係性 子どものつまずきを優先 感情的に言いすぎた		カテゴリー	サブカテゴリー	コード
	担任との連携	担任の考え方と心を合わせる 話す時間を作る コミュニケーションを深める 連携の大切さ 時間がない		事前アンケートによる事例検討	事前アンケートがよかったです 具体的に理解できました 事例を示してくれてわかりやすい	
	自己研鑽	発達障害の基本特徴・支援の方向性が勉強になりました 自己課題の発見		リモート	リモート開催有り難い 担任との関係をもっと聞きたい 研修を増やして欲しい 支援員に望むことを聞きたい	
その他				今後に向けて	教師の叱責 テスト	

今後の展開

今後においては、支援員が役割を遂行し易いように、下田市教育委員会と協力し、本研究で明らかになった課題の改善に取り組む必要がある。その中にあって支援員への研修内容・方法は、個別具体的な事例を通して、実践力の向上を目指した内容にしていかなければならない。支援員と教職員との連携については、早急に学校と連携して体制づくりを講じる必要がある。また、支援員からは、研修会の機会を増やして欲しいという要望があった。これについては、下田市教育委員会支援員と協議する課題である。